



英文ガイドブック『Lonely Planet Japan』における 関西地方の取り扱いとその変化 : 2000年版と2013年 版を対象として

河本, 大地
金子, 綾香

(Citation)

兵庫地理, 59:29-37

(Issue Date)

2014

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003884>



英文ガイドブック『Lonely Planet Japan』における 関西地方の取り扱いとその変化

—2000 年版と 2013 年版を対象として—

河本 大地・金子 綾香

1. 研究の目的と背景

本研究の目的は、インバウンド観光（インバウンド・ツーリズム）が推進される中、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」開始前と現在とで、英文ガイドブックとして圧倒的シェアを誇る『Lonely Planet Japan』の記載内容が、関西地方に関してどのように変化しているのかを明らかにすることである。

日本では現在、インバウンド観光が急成長し、訪日外国人の数が増加している。2000 年に約 476 万人であった外国人旅行者受け入れ数は、2013 年には 1036 万人まで増えた（日本政府観光局（JNTO）資料による）。

これには政府の施策が大きく影響している。日本人の海外旅行者数に比べて訪日外国人の数が少ない、すなわちアウトバウンドとインバウンドのアンバランスが存在することから、政府は 1995 年に「ウェルカムプラン 21（訪日観光交流倍増計画）」を策定し、2003 年からは「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を展開してきた。その過程で、ビザ発給要件の緩和や、2010 年の羽田空港の新国際ターミナル開設等が行われ、外国人観光者の受け入れ体制が整いつつある。日本では、海外旅行市場の拡大により、低価格で海外へ行くことが可能になったため、日本人の国内旅行は減少している。しかし訪日外国人旅行者は、旅行する時期や滞在期間、訪問する地域の傾向が日本人と異なる（フंक、2012）。したがって、インバウンド観光には国内での経済効果が期待されている。

インバウンド観光に関する研究も活発化している。北海道への外国人旅行者の流動形態を市町村単位で見た小松原（2000）や、台湾・韓国からの訪日パッケージツアープランの分析を通して国際観光都市としての大阪の特性を明らかにしようとした東原ほか

（2003）、アジア諸国から北海道へのインバウンド観光について観光関連機関への聞き取りをもとに考察を行った清水・祖田（2005）、山形県の庄内空港におけるチャーター便の外国人ツアー客を対象に満足度を調査した山口（2008）、中国の旅行会社が企画する訪日パッケージツアーの旅程から空間的特徴を明らかにした金（2009）、富山県立山町と青森県十和田市の事例分析等からグリーン・ツーリズムにおける外国人観光客市場の可能性と地域の課題を示した筒井・澤端（2010）、外国人訪問者に伸び悩みがみられる沖縄県において韓国・台湾からの団体ツアーの訪問先や食事内容、海外旅行先としての沖縄県の位置等を検討した北田（2011）など、枚挙に暇がない。

こうした中、日本を扱った外国語表記のガイドブックに関する研究も活発に行われつつある。本稿の内容に密接に関わるもののみを挙げると、日本および英語圏で出版された旅行案内書の東京における掲載地点を GIS で空間分析し、英語圏の案内書の方が掲載地点の分布範囲が狭く、鉄道駅への近接性も高いことを明らかにした鈴木・若林（2008）、英文ガイドブック『Lonely Planet Japan』の 1980 年代の 3 版分における、西洋と東洋を正反対に捉えるオリエンタリスト言説の変化を分析した Milne（2013）、同じく『Lonely Planet Japan』の 2009 年版（第 11 版）における山形県庄内地域の記載内容をみた松山（2012）などがある。

観光庁観光地域振興部観光資源課（2011）によると、外国人が日本を訪れる際に情報源としているのは、ポータルサイト（54.8%）、ガイドブック（31.9%）、ソーシャルネットワーキングサイト（16.3%）、ブログ（8.7%）である。ここからは、インターネットが大きい

な位置を占めていることがわかる。しかし、ガイドブックは持ち運びが容易で一覧性・網羅性や信頼性があり、完全にインターネットに取って代わられることは考えにくい。ガイドブックの記載内容を読み取ることは、観光研究においてしばしば引用される「ツーリストのまなざし (tourist gaze) (Urry, 1990)」を読み取ることでもある。ツーリスト (観光者) は、非日常の楽しみを期待して観光行動を起こす。したがってガイドブックの内容には、それぞれの地域・場所における、著者・編集者にとっての非日常の楽しみが投影されている。そのまなざしを通じて地域や場所を理解しようとするプロセスは、そこを日常とする者にとって気づきや発見に満ちており、地域や場所を新たな目で捉えることができる。また、「改訂を繰り返して記述を更新していくガイドブック・シリーズは、その時々の出発地と目的地の文化を誌面上に色濃く反映させるだけでなく、新たな真似と追体験のきっかけを生み出し、多くの人々へ提供していく」(山口、2010)。

本稿が分析対象とする『Lonely Planet Japan』は、日本を扱った英語のガイドブックの中でも発行部数が多く、訪日外国人の行動に大きな影響を与えていると考えられる。1981年に初版が出た後、版を重ねており、2013年には第13版が発行されている。

2. 研究方法

本研究の分析対象は、2000年版と2013年版の『Lonely Planet Japan』のうち、関西地方の各地について紹介している部分である。記載内容を分類し、各項目に該当する行数をカウントした。その後、類似の項目を整理統合し、9つの大項目と31の小項目を設けた。

大項目の1つ目は、「一般情報」である。ここには、「地域の特徴と歴史」、および「お助け情報」の小項目を設けた。前者には、地域の地理的特徴や概況、歴史、そこでの過ごし方の提案などが含まれる。後者は、観光案内所等の情報、入国管理所、医療関係、金銭関係、インターネットへのアクセス、郵便関係、旅行代理店などの情報からなる。

2つ目の大項目は、「建造物・博物館・公園等」である。ここには、「城」、「御所」、「博物館等」(美術館・水族館等を含む)、「建物」(タワーや駅舎を含む。城や宗教施設などは含まない)、「モニュメント」(記念碑、銅像など)、「古墳」、「公園・庭園」(建物等は含まない)が該当する。

3つ目の大項目は、「イベント・ツアー・娯楽」である。「イベント」(各種の祭りを含む)、「ガイドツアー・体験」(ガイド付きのツアーや、舞子・茶席・日本料理等の体験プログラム)、「エンターテインメント」(伝統芸能や演奏、カラオケ、劇場などの情報)、「遊園地」を含めた。

4つ目の大項目は、「宗教」である。神社・仏閣等とその関連施設が主であるが、それらの歴史や生活も不可分であるためここに含めている。小項目には分けていない。

5つ目の大項目は、「買い物」である。これも小項目には分けていない。

6つ目の大項目は、「飲食」である。これは、「レストラン・料理」と、「飲酒・夜遊び」からなる。後者については、飲酒と夜遊び(ナイトライフ)が密接不可分となっている記載内容が多いことから、セットにして扱う。夜遊びのうち、前述の「エンターテインメント」や、後述の「ホテル・旅館」と重なるものについては、飲酒との関係性が強い記載をここに含めることとした。

7つ目の大項目は、「宿泊」である。「ホテル・旅館等」(民宿、ユースホステル等を含む)と「キャンプ」の小項目を設けた。キャンプについては、他の宿泊施設とは性格が異なるため別に分けた。

8つ目の大項目は、「自然資源」である。「海岸・島」(ビーチ等を含む)、「温泉」、「桜」、「滝」と、それらに含まれない「その他の自然」(山岳、動物や、桜以外の植物など)の小項目を設けた。

9つ目の大項目は、「交通」である。これは、「鉄道」(ロープウェイなどの索道や、モノレール等を含む)、「航空」(空港情報を含む)、「バス」、「徒歩」、「自転車」、「タクシー、レンタカー」、「船舶」(フェリー、高速船など)の小項目に分けた。

これらについては、固有名詞を挙げているだけの場合はカウントせず、内容の説明をおこなっている場合のみカウントしている。ただし、すべての行をいずれかの項目に分類しているわけではないし、判断の揺れや見落としもあるかもしれない。項目ごとの分量は、あくまでも目安とお考えいただきたい。

これらの分類と、地域ごとの掲載量・掲載内容を比べながら分析・考察する。

3. 『Lonely Planet Japan』における関西地方の位置づけ

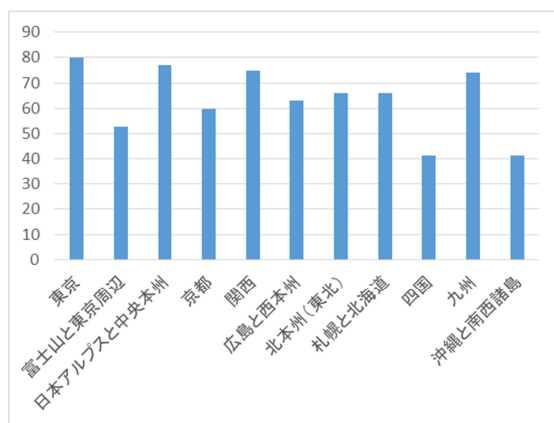
『Lonely Planet Japan』の2013年版は、全体が「PLAN YOUR TRIP（旅の計画を立てよう）」、「ON THE ROAD（各地の案内）」、「UNDERSTAND（日本を理解するために）」、「SURVIVAL GUIDE（サバイバル・ガイド）」の4つに分けられている（訳は筆者）。

このうち「PLAN YOUR TRIP（旅の計画を立てよう）」は、日本の概要、観光地25選、初めての日本訪問の際に知っておくべきことの概要（詳細は「SURVIVAL GUIDE（サバイバル・ガイド）」に記載）、1年の流れ、モデルコース、日本でのスキー、子連れ旅、飲食、安価に旅するコツ、各地方の概要（Regions at a Glance）などからなる。その中で観光地25選（「Japan's Top 25」）は、1. 京都の寺院と庭園、2. 温泉、3. 日本食、4. 桜の花見、5. 旅館への宿泊、6. 城、7. 高野山奥の院、8. 嵐山の竹林、9. 京都の芸者の舞、10. 小笠原諸島（Ogasawara Archipelago）、11. 広島、12. 祭り、13. ワイルドな北海道、14. スキー、15. 歌舞伎、16. 日本アルプスのハイキング、17. 東京でのショッピング、18. 東京の現代建築、19. 富士山、20. 直島、21. 熊野古道、22. 相撲、23. 奈良の大仏、24. 上高地、25. 妻後・馬込のハイキング、である。このうち、1・8・9は京都府、7・21は主に和歌山県、23は奈良県であり、関西地方に特化された内容である。また、2・3・4・5・6・12・15等は関西地方に限定されていないが、この地方にも存在する観光資源であり、そのいくつかには後の観光地案内の

ページ番号が記されている。多くは、桜の花見で京都の円山公園や御所、旅館で京都の俵屋、祭りで祇園祭など京都のものであるが、城には姫路城や彦根城が挙げられている。

各地方の概要（Regions at a Glance）においては、「京都」のキーワードとして「寺院・文化・食」が挙げられ、「神道と仏教の傑作」・「日本の文化的な倉庫」・「料理：洗練された、あるいは」の3つについてまとめられている。料理については、懐石とラーメンが挙げられている。また、「関西」のキーワードとして「文化・自然・温泉」が挙げられ、「国家のルーツ」・「深山と巡礼道」・「海辺と川辺の温泉」の3つについてまとめられている。

このように、『Lonely Planet Japan』において関西地方は重要な位置を占めており、かつ掲載内容は多様である。それは、このガイドブックの大半を占める「ON THE ROAD（各地の案内）」の地方別ページ数からも確認できる（第1図）。



第1図 2013年版における地方別のページ数

なお、2000年版では、「関西」の章の中が京都、滋賀県、大阪、神戸、姫路、奈良、奈良周辺、和歌山県、志摩半島に分けられ、これとは別に中国地方を中心とする「西本州」に若狭湾エリアの節が設けられていた。それが2013年版になると、記載量のバランスを考慮してか「京都」が「関西」から独立した章になるとともに、兵庫県北部（但馬地方）をも含んでいた「若狭湾エリア」は「北関西」という表現に改められ、「関西」に含められている。「奈良」

および「奈良周辺」については、2000 年版で奈良として扱われていた地域の一部分が 2013 年版では奈良周辺に含まれているため、両年版を比較する本稿では合算して扱う。2000 年版の「和歌山県」については、2013 年版では 2000 年版で扱われていなかった三重県熊野地域を含む「紀伊半島」として掲載されている。2000 年版における三重県の「志摩半島」は、2013 年版では記載量が大幅減となり、「伊勢」のみとなっている。

4. 内容の特徴とその変化の概要

第 1 表は、2000 年版および 2013 年版における関西地方各地の記載内容の概要である。両年版ともに、京都が関西地方全体の 4 割以上を占めており、奈良・奈良周辺や大阪、紀伊半島（和歌山県）の記載量が多い。2013 年版の記載量は、関西地方全体で 2000 年版比 1.08 倍と微増であるが、北関西の 2.13 倍を除けば、大阪の 1.33 倍、紀伊半島の 1.21 倍など増加分はさほど大きくない。減少は、「伊勢」が「志摩半島」として掲載されていた 2000 年版比で半減しているほか、奈良・奈良周辺が 25.3%減、滋賀県が 23.2%減などである。

大項目ごとにみると、2000 年版で多く掲載されていた地域概要等の一般情報は 2013 年版では 30.0% 減少し、代わって買い物、飲食、宿泊、交通や、宗教に関わる内容の記載が増えていることがわかる。地域とクロスしてみると、一般情報が特に減少しているのは、掲載箇所が減少した志摩半島と奈良・奈良

周辺、そして京都で、大阪、神戸、北関西は逆に微増である。買い物については、ほとんど京都と大阪しか取り上げられていないが、どちらも増加し、特に大阪は倍以上になっている。飲食についても、大阪は 2.66 倍に伸びているほか、北関西が新たに取上げられるようになった。宿泊は、京都、紀伊半島で大きく伸び、北関西が新たに取上げられるようになった一方、神戸等は記載量を減らしている。交通については、京都、紀伊半島、北関西の記載が充実した一方、大阪は大きく数を減らしている。このほか、宗教に関する記載が京都で増えて奈良・奈良周辺で減ったり、自然資源に関する記載が紀伊半島や北関西で増えて京都、奈良・奈良周辺で減ったりしている。イベント・ツアー・娯楽については、紀伊半島の伸びと神戸の減少が著しい。

全体として、記載量の多い京都では、宗教（寺社）に関する記載を重視しつつも地域概要等よりは飲食・宿泊・交通に関して詳しく扱い、観光者にとつての利便性を強調する方向にある。また、大阪は買い物と飲食の街としての性格を強めたと言える。神戸は、飲食に魅力はあるが滞在して楽しむ観光地としては意識されない傾向にある。奈良・奈良周辺と志摩半島は、全般に記載量が減少しており、魅力的な観光資源として映っていないのかもしれない。紀伊半島と北関西については、情報の「開拓」が進んだと言えよう。

第1表 2000年版および2013年版における記載内容の概要

		一般情報	建造物・博物館・公園等	イベント・ツアー・娯楽	宗教	買い物	飲食	宿泊	自然資源	交通	計
京都	2000年	619	332	303	547	148	551	424	165	718	3807
	2013年	457	383	266	926	193	737	540	40	1007	4549
滋賀県	2000年	73	53	21	38	7	26	5	0	62	285
	2013年	52	52	15	30	0	22	0	1	47	219
大阪	2000年	181	158	96	24	60	151	138	0	152	960
	2013年	184	216	97	38	147	401	146	9	40	1278
神戸	2000年	54	65	56	0	8	82	70	0	68	403
	2013年	68	58	19	9	0	112	43	14	77	400
姫路	2000年	34	49	9	13	0	25	20	0	19	169
	2013年	26	66	11	0	0	31	32	0	16	182
奈良・奈良周辺	2000年	365	187	97	400	8	102	129	67	229	1584
	2013年	138	134	87	355	0	111	124	26	209	1184
和歌山県	2000年	273	68	44	76	0	110	118	82	117	888
	2013年	216	50	122	76	0	62	199	150	203	1078
志摩半島	2000年	115	32	21	135	7	32	83	50	64	539
	2013年	26	0	11	120	0	33	42	0	42	274
伊勢	2000年	72	12	7	4	0	0	33	0	32	160
	2013年	76	11	0	0	0	51	72	66	65	341
若狭湾エリア	2000年										
	2013年										
北関西	2000年	1786	956	654	1237	238	1079	1020	364	1461	8795
	2013年	1243	970	628	1554	340	1560	1198	306	1706	9505

5. 内容の特徴とその変化の詳細

本章では、記載内容の一部をトピック的に取り上げ、特徴と変化の詳細を述べる。2000年版の記載内容の詳細は第2表、2013年版の記載内容の詳細は第3表に示している。

(1) 人混みの回避

2000年版では、京都において人混みを避けたがる傾向が明瞭に確認できる。なるべく早朝に来ることなどが推奨されている。この傾向は2013年版にも確認できる。たとえば、京都の西陣織会館の紹介には、「残念ながら、このところ、大規模なバスツアーであふれかえっている」と記されている。また、白浜温泉について、「日本人はルールに従って物事をするのが好きで、海で泳げる期間は7月下旬から8月の終わりまでというルールがあるから、ここには6月や9月に来て思いっきり泳ぐのがよい」などと記されている。

(2) 阪神・淡路大震災

2000年版には神戸のページに、1995年に発生した阪神・淡路大震災について多く記載されていた。2000年版が発売された当時は、現在とは異なり、震災の影響について気にする旅行者が多かったためと考えられる。2013年版では、わずかに神戸ルミナリエの説明の中に記されているのみである。

(3) お助け情報の記載の変化

本稿では、観光案内所等の情報、入国管理所、医療関係、金銭関係、インターネットへのアクセス、郵便関係、旅行代理店などの情報を、「一般情報」の中の「お助け情報」として扱っている（第2表・第3表）。この記載量の減少は、クレジットカードやインターネット、スマートフォンの普及等が考えられる。

たとえば、金銭（Money）の項目は、2000年版には府県ごとに掲載されているが2013年には掲載されていない。これは、インターネットでのクレジット支払いや、海外での利便性等により、2000年版に比べて2013年版では外貨両替のできる銀行を多く掲載する必要性が薄れたためと考えられる。

また、2000年版では地図（Map）という項目が

設けられ、英語表記の地図を入手できる場所が細かく説明されていたが、2013年版では観光スポットごとに公共交通機関での行き方や運賃が細かく記載されている。この変化は、外国語を含む地図が各所で整備されたことや、インターネットおよびスマートフォンの普及等が要因と考えられる。

(4) 博物館等

博物館等は、2000年版の235行から、2013年版の471行へと増えている。これは、ほぼいずれの府県においても確認できるが、大阪や京都で顕著である。

訪日外国人による日本の博物館・美術館への期待率は28.3%と高い傾向にあり、訪日外国人の興味・関心率は「とてもある」25.1%、「少しある」38.3%である（観光庁観光地域振興部観光資源課, 2011）。そのため、掲載箇所を増加させ、日本の美術・工芸品や文化を体験・理解できる場所の掲載が増加していると考えられる。

(5) 伝統文化の体験の場の重視

多くの欧米人が「伝統的な景観・旧跡」「伝統文化の体験・鑑賞」、「現代文化の体験・鑑賞」など寺社に関連することに興味を抱いている（観光庁観光地域振興部観光資源課, 2011）。このことから、経験・鑑賞したい日本の場所として、寺社や城などを掲載していると考えられる。

京都においては、舞子に変身する体験をしたり、茶席を体験したり、日本料理を体験したりといった内容が重視されている。また、高野山の宿坊については、予約の仕方や過ごし方が詳しく説明されている。このように、両年版とも日本の伝統文化の体験が重視されている。

(6) 買い物

大阪では買い物に関する記載が多くなっているが、その中で目立つのは、電気店である。2000年版では、「でんでんタウン」、すなわち日本橋にある電気の街が「大阪の秋葉原」として大きく掲載されていた。ここには、電機・オーディオ・大工道具・工具・機械・パソコンなど多彩な専門店が建ち並んでいた。しかし、その後に大規模店舗を立地させたヨドバシ

第2表 2000年版における記載内容の詳細

[illegible]

第3表 2013年版における記載内容の詳細

	一般情報			建造物・博物館・公園等			イベント・ツアー・娯楽			宗教		買い物		宿泊		自然資源		交通		統計										
	地域の特徴とお届け情報 と歴史 報	城 御所 館等	博物館	建物	モニュメント	公園・庭園	古墳 園	イベント・ガイド ツアー・体験	エンターテインメント	遊園地	レストラン・ カフェ・料理	飲み物・夜遊び	温泉・ スキー場 等	キャンプ・ ホテル・旅 館等	海岸・ 温泉・ 湖	山・ 森林・ 自然	その他の 施設	鉄道	航空		バス	徒歩	自転車	レンタカー	船舶					
Kyoto	95	130	7	13	9	39	7	13	62	44	125	150	13	107	9	11	143	0	54	0	40	31	1055	409						
	29	13	31	31	3	39	7	13	4	12	125	83	3	36	139	11	40	22	4	14				534						
	Central Kyoto	12	17	19	21	15	1	23				52	7	296	128		19	12	15					301						
	Southern Higashiyama	42	42	52	52	24						147			128		42	25	63					625						
	Northern Higashiyama	13	8	25	29	13	3	13				217	3	103	45		30	34	32		1			548						
	Northwest Kyoto	8	5									93			58		2	11	4					118						
	Arashiyama&Sagami Area	9	5					50				44			18		18	31	35		3			303						
	Southeast Kyoto	5	3									34			83		16	10	10					114						
	Uji	5	3									34			94		3	8						53						
	Southwest Kyoto	53	3							4	9		121	69		12		3	12	4	2				387					
Osaka	284	173	19	21	132	101	0	0	110	73	65	128	0	920	107	549	0	0	29	11	0	0	29	43	459					
	31	68						28		5	37	10	42	64	07	32	6							75						
	Kitu Area																4							62						
	Central Osaka	4	32				6										1							33						
	Nakanishi-shima	20	22														4							95						
	Dotonbori	16															4							103						
	Amerika Mura	10	5			8	4					12	61	56		4								56						
	Tennoji&Arround	5	16			5						5	5	5		4								91						
	Tempozan	2	41				13					74	61	77	73		6			8				301						
	Other Areas	116	68	32	0	120	50	0	0	14	28	5	43	21	38	147	276	1235	146	0	0	0	0	8	0	880				
Kobe	52	16			46			12	10		43	9	9	88	24	43	3	36	29	7					332					
	Himeji	11	15	32	13			21	11			31		32		16									18					
	Shiga Prefecture	14																						34						
	Otsu	6						10																15						
	Ishiyama-dera																							34						
	Miho Museum	8	7	10	16																			25						
	Hikone	17							5			13			9		2	4						22						
	Nagahama	45	7	10	0	33	0	0	0	15	0	0	22	0	0	0	35	0	4	8	0	0		69						
	Nara	44	24						42															210						
	Narayan Area	13																						347						
Around Nara	9	5	61	7					45															255						
	Naramachi	5																						19						
	Temples Southwest of Nara	6					4																	175						
	Around Sakurai	2																						92						
	Around Yamato Yagi	4																						79						
	Asuka	8																						37						
	Yoshino	15	8			8	3	10				28		19		23		3	7	6				155						
	Yoshino	106	32	0	0	95	8	3	14	42	43	0	355	0	111	101	0	68	34	6	0	0		1184						
	Kii	16							61	43		11		29	46	36								248						
	Koyasan	97	31			6	11		7			38		70	28	23	6	3						395						
Northern Kansai	Tanabe	5										15		15	3	6								29						
	Shirahama	7	14									13		26	9	9	4							133						
	Kushimoto, Shionomisaki & Kii	8												8	6									51						
	Oshima	14																						54						
	Nachi & Kii-Katsura	4	2			6			5						6	2	10	10						23						
	Shingu	4													8	3	4							44						
	Hogou	4	4																					19						
	Yunomine, Watarase & Kawayu	10																						69						
	Onsen	165	51	0	0	23	12	12	0	3	73	43	0	6	15	94	0	69	21	7	12	0		977						
	Ise	18	5						11				33			2	21	15	4						274					
Northern Kansai		14																						24						
Moroyose		3																						17						
Takeno		5																						35						
Kinosaki		13	7									42		48	3	14	6							138						
Tango Peninsula		11																						29						
Amanohashidate		19										9		14	1	5								59						
Maizuru		4																						19						
Maizuru		69	7	0	0	9	2	0	0	0	0	51	0	69	3	36	0	5	8	2	9	5		341						
Maizuru		866	377	93	21	471	173	15	14	183	263	135	171	36	154	340	1192	6	34	192	27	16	37	772	57	407	345	55	60	10

カメラやビックカメラが 2013 年版では掲載され、でんでんタウンの記載は消滅した。

本と書店 (Books & Bookshops) にも、大きな変化が見られる。2000 年版では、府県ごとにこれらが掲載されているが、2013 年には掲載されていない。その要因は、インターネットの普及と考えられる。1990 年頃から個人向け接続サービスの形で普及の始まったインターネットは、2000 年頃になってから商用的に普及し始めた。したがって 2000 年版では、外国人向けの本を販売している場所が詳しく記載されている。2013 年版では買い物 (Shopping) のカテゴリで、本と書店に該当する内容が記載されている。

(7) 安価な旅の推奨

宿泊費や飲食費の高いホテルや旅館、レストラン等を通りおさえたうえで、安価に旅するためのコツが各所に記されている。京都の場合には、京都大学の定食が安い、それでも納得がいけない人は天下一品へなどと紹介されているのが一例である。一風堂や大戸屋などのチェーン店も多く紹介されている。

宿泊施設に関しても、ユースホステルやゲストハウスが重視されている。2013 年版の北関西において諸寄 (兵庫県美方郡新温泉町) が取り上げられているのは、そこのユースホステルに執筆者が宿泊して気に入ったからに他ならない。また、京都のザ・ファーストニッシュドアパートメントなど、安く長期滞在するための施設も積極的に紹介されている。

(8) 温泉

温泉に対しては、訪日外国人の半数以上が期待している (観光庁観光地域振興部観光資源課, 2011)。しかし、関西地方は温泉が多いにも関わらず、掲載箇所は和歌山県の湯ノ峰温泉や兵庫県の城崎温泉、京都の一部などに限定されている。兵庫県の有馬温泉、湯村温泉などは掲載されていない。しかし温泉に関する記載は 109 行から 192 行へと増加しており、特に城崎温泉については詳述されるようになった。

(9) 交通

交通に関して、京都で記載量が増えているのは、

鉄道と徒歩において顕著である。鉄道については、市営地下鉄東西線の開通等によるものと考えられる。徒歩については、2000 年版でも東山区を中心に扱っている Eastern Kyoto で記載が多かったが、2013 年版ではそれが 2 つに分けられた Southern Higashiyama と Northern Higashiyama (東山区の南部および北部)、また嵐山や北山でも記載が増えた。徒歩での寺社巡りやハイキングの楽しみがつづられている。徒歩の重視は、京都のみの特徴である。

また、前述の通り、2000 年版では英文表記の地図がどこで入手できるかが記されていたが、2013 年版では観光スポットごとに公共交通機関での行き方や運賃が細かく記載されている例が多い。

6. おわりに

本研究では、日本においてインバウンド観光が推進される中、英文ガイドブックとして圧倒的シェアを誇る『Lonely Planet Japan』の記載内容が、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」開始前の 2000 年と 2013 年とで、関西地方に関してどのように変化しているのかを明らかにしようとした。

その結果、内容的には地域概要や旅の手助けとなる情報などの一般情報が減少し、買い物、飲食、宿泊、交通や、宗教 (寺社等) に関する記載が増えたことが明らかになった。個々の場所とそこへのアクセスの情報が重視される形となっていた。

地域で見ると、記載量の多い京都では宗教に関する記載を重視しつつも飲食・宿泊・交通に関して詳しく扱い、観光者にとっての利便性を強調する方向にある。しかし両年版とも、人混みの回避を重視した過ごし方が提案されている。大阪は買い物と飲食の街としての性格を強めたと言える。博物館等の文化施設も積極的に掲載されるようになっている。神戸は、震災に関する記述がほぼ消滅した。しかし、飲食に魅力はあるが滞在して楽しむ観光地としては意識されない傾向にある。奈良・奈良周辺と志摩半島は、全般に記載量が減少しており、魅力的な観光資源として映っていないのかもしれない。紀伊半島と北関西については、情報の「開拓」が進んだと言えよう。

とはいえ、本稿では分析し切れていない記載内容も多い。ローカルとグローバルをつなぐ新しい観光を切り拓いていくためにも、今後の課題としたい。

参考文献

観光庁観光地域振興部観光資源課 (2011) : 『博物館等の文化施設における外国人旅行者の受入に関する調査業務報告書』観光庁。

<http://www.mlit.go.jp/kankoch/siryou/archive/20110325.html>

北田晃司 (2011) : 沖縄県における観光の国際化, 地理学論集 86, pp.24-40.

金 玉実 (2009) : 日本における中国人旅行者行動の空間的特徴, 地理学評論 Series A 82, pp.332-345.

小松原 尚 (2000) : 北海道におけるインバウンド・ツーリズム, 北見大学論集 45, pp.49-59.

清水伊織・祖田亮次 (2005) : 北海道におけるアジアからのインバウンド・ツーリズム, 北海道地理 80, pp.25-39.

鈴木晃志郎・若林芳樹 (2008) : 日本と英語圏の旅行案内書からみた東京の観光名所の空間分析, 地理学雑誌 117, pp.522-533.

筒井一伸・澤端智良 (2010) : 外国人観光客を対象としたグリーン・ツーリズムの可能性と課題—マーケティング分析の視点から—, E-journal GEO 5, pp.35-49.

東原由季・木下 光・丸茂弘幸 (2003) : 台湾・韓国からの訪日パッケージツアープランにみる「国際集客都市」大阪の特性に関する研究, 都市計画論文集 38, pp.691-696.

フンク カロリン・クーパー マルコム・淡野昭彦 (2012) : 外国人旅行者と日本人旅行者の動機と行動の違い, 日本地理学会発表要旨集 81, p.81.

松山 薫 (2012) : 英語圏の主要ガイドブックにみる山形県庄内地域に関する記述—Lonely Planet社の"Japan 11th edition"を事例として—, 東北公益文科大学総合研究論集 21, pp.95-106.

山口泰史 (2008) : 庄内地域における外国人旅行者の満足度について—庄内空港チャーター便ツアー客を対象に—, 季刊地理学 60, pp.109-113.

山口 誠 (2010) : 『ニッポンの海外旅行—若者と観光メディアの50年史—』筑摩書房。

Milne, D. (2013): Discourses on Japan in Anglophone Tourist Guidebooks: Lonely Planet in the 1980s. 観光学評論 1, pp.69-80.

Urry, J., The tourist gaze: Leisure and travel in contemporary societies, Sage, 1990. (アーリ (加太宏邦訳) 『観光のまなざし—現代社会におけるレジャーと旅行—』法政大学出版局, 1995.

(こうもと だいち・神戸夙川学院大学観光文化学部、
(かねこ あやか・神戸夙川学院大学観光文化学部
卒業生)